

令和6年度 岡南こども園 組織評価資料

令和6年3月

1. 本園の教育及び保育の目標

- いのちの尊さに気づかせ、他へ思いやり、感謝の気持ちを育てる。
- 心身ともに健やかな活動ができる環境を整え、個性を発揮できる生活を提供する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画を基に設定した園評価の具体的な評価項目や計画

「自己目標・テーマ設定シート」（自由記述）、「自己評価チェックリスト」（確認項目への評価と自身の気づきの記入）による自己評価

〔重点目標〕

- ・教育・保育の基本（認定こども園教育・保育要領）と園の理念・方針の十分な理解と実践
- ・ひとりひとりの子どもの発達の理解
- ・環境作り～心地よい生活の場の提供
- ・子どもたちの育ちの過程の保護者との共通理解
- ・課題の話し合いと見直しや改善への努力、更なる協働性の構築

3. 自己評価の実施状況 / 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 実施日	令和7年2月28日(金)	評価 方法	「自己評価チェックリスト」による 中間評価：9月30日、年度末評価：2月28日
-----------	--------------	----------	--

	具体的な評価項目	評価	取り組み状況
1	基本項目 （「教育・保育の基本と園の理念・方針の理解と実践」等）	B	・「認定こども園教育・保育要領」の理解は一定程度なされているが、園の理念や教育・保育の方針については十分な実践ができているとは言えない。
2	子どもとのかかわり （「ひとりひとりの子どもの発達の理解」等）	B	・わかりやすい言葉を多く使うことをより心掛ける必要がある。 ・異年齢児との交流など、更に活動の幅を広げる必要がある。 ・一部の園行事で、地域の小学生の参加を実現することができた。 ・地域の人や高齢者と親しむ機会の設定は未だ不十分である。
3	保育環境 （「環境作り～心地よい生活の場の提供」等）	B	・秋から冬にかけて、自然と触れ合う機会を多く作ることができた。 ・遊具やモノの置き場所、片付け方を一層工夫する必要がある。
4	保護者とのかかわり （「子どもたちの育ちの過程の保護者との共通理解」等）	B	・子どもたちの育ちの過程を保護者と共通理解が行えるよう努めた。 ・園の教育・保育の方針や内容の保護者への伝達、及び個々の家庭の養育方針の理解も一層進める必要がある。
5	ほかの保育者とのかかわり （「課題の話し合いと見直しや改善への努力、更なる協働性の構築」等）	B	・報告や連絡、相談は十分に行うことができた。 ・教育・保育に係る話し合いの機会をより増やす必要がある。 ・行事の指導案等をすべての職員間で十分に共有することが大切である。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 施設関係者評価の実施状況

評価者	父母の会役員（11 名）		
評価 実施日	令和 7 年 3 月 12 日(水)	評価 方法	「自己評価報告書」についての協議・意見交換

※公開保育の取組と組み合わせて施設関係者評価を実施した場合のみ、公開保育の実施状況が分かる資料を別途添付すること。なお、公開保育と施設関係者評価をどのように組み合わせたか分かるようにすること。

5. 施設関係者による評価（上記 3. の自己評価結果に関する評価）及び意見の概要

・丁寧な自己評価は、園の職員の高い向上心を感じる。 ・職員同士の話し合いの機会をよりとり、働きやすい環境作りを一層進めてほしい。 ・保護者と職員との話をする機会を多くつくってほしい。 ・中学校区全体で SNS に係る研修を行い、園からも参加したが、こうした乳幼児期の子どもを持つ保護者向けの研修の機会は大切である。 ・地域の支援センターとしての役割は大きい。存在を一層周知することに努め、来所しやすいセンターづくりをしてほしい。 ・自己評価や振り返りは重要である。今後も取組を続けてほしい。
--

6. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	園の教育・保育に係る全体計画の保護者への周知	「教育・保育の全体計画」や「グランドデザイン」等とおして理解を求める。
2	表現活動における工夫して遊べる環境作り	子どもの気づき・発見を大切にしたり関わりに一層取り組む。
3	家庭での養育方針の理解	個別面談の複数回実施や、送迎時の言葉がけ等により、職員が意識して理解に努めるようにする。
4	園行事の指導案の内容の充実と一層の共通理解促進	行事に係る話し合いの機会をより増やす。

・登園時及び降園時、さらに面談などの機会をとおして、日頃から保護者とのコミュニケーションを十分にとり、園の教育・保育に係る方針や計画の伝達を適切に行うと共に、家庭での養育方針の聞き取り・理解を一層進める必要がある。 ・子どもの気づき・発見を促すような環境作りに努め、子どもが遊びの中でしたいことをできるように一層工夫していきたい。 ・配慮を必要とする子どもが増える中、個別の指導計画をもとに、園全体で適切な指導を継続していく必要がある。 ・コミュニティスクールや保幼小中連携への取り組みの中でも、こども園での非認知能力の醸成が求められている。研修を重ねながら、園職員全体で意識を向上させて取り組みたい。
--

7. 自己評価の結果・施設関係者評価の結果の公表の状況

公表 時期	令和 7 年 5 月末頃	公表 方法	園 HP で公開
----------	--------------	----------	----------